

耐低温性シシトウ試交系統の収量

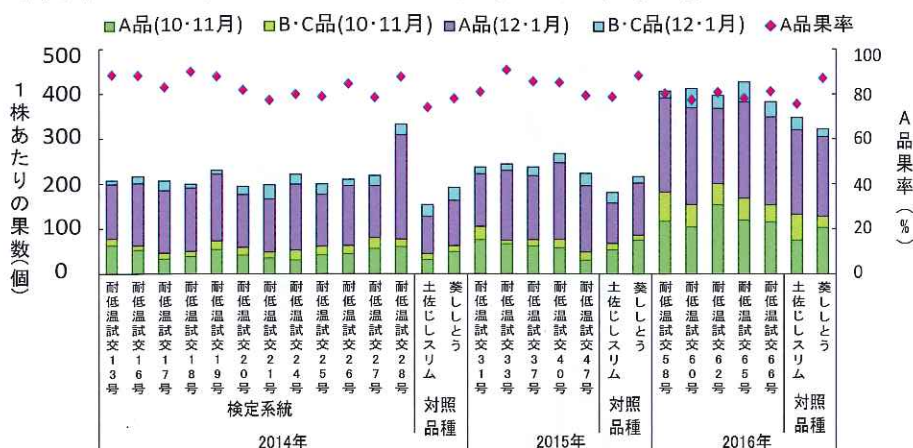


図1 耐低温性シシトウ試交系統22系統の収量特性

注) 高知県園芸連出荷規格によるA品(AL+AM)。A品果率=A品kg/可販果×100。
 耕種概要:うね幅180cm・株間45cmの2条千鳥植え、2本垣根仕立て、最低夜温17℃、換気点27℃。
 2014年:播種:8月13日、定植:9月17日、調査期間:2014年10月8日～2015年1月28日。
 2015年:播種:8月6日、定植:9月16日、調査期間:2015年10月7日～2016年1月29日。
 2016年:播種:8月10日、定植:9月13日、調査期間:2016年10月4日～2017年1月31日。



写真1 耐低温試交 28 号 (2014 年)



写真2 試交 40 号 (2015 年)

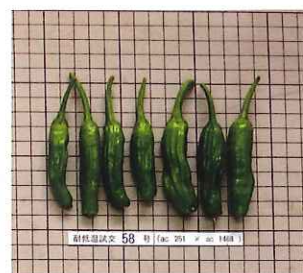


写真3 試交 58 号 (2016 年)

高温性作物であるシシトウを、促成栽培において通常より低い温度で栽培できれば、燃料費を削減でき、所得の向上につながります。そこで、低温環境でも栽培可能なシシトウの育成に取り組んでいます。

これまでに、シシトウの市販品種や、シシトウとピーマンとの交雑後代を素材として薬培養による固定系統を得ました。そのなかから、1株あたりの果数が多く、果形が良い固定系統を選抜し、それらを組み合わせた68の試交系統の収量を最低夜温17

℃の栽培環境において調べました。その

なかで、対照品種（‘土佐じしスリム’および‘葵ししとう’）と比較して1株あたりの果数が多く、A品率が同等以上となるF₁組み合わせが22系統あることがわかりました(図1、写真1、2、3)。

これらの選抜系統は、現在のところ、トバモウイルスに対して抵抗性がない、あるいは果実が辛くなることがある、果実の色が薄い等の問題がありますので、引き続きこれらの形質の改良に取り組めます。

(園芸育種担当 鍋島怜和 088-863-4916)

高知県農業技術センターニュース 第89号 平成29年10月1日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 石本 周平

農業技術センター

〒783-0023

高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064

高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801

吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>